

令和4年度 第2回 温海地域振興懇談会 会議録概要

○期 日	令和5年2月14日（火） 午後2時～午後4時10分
○会 場	鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
○出席者	五十嵐伊都夫会長、五十嵐正直委員、三浦英喜委員、若松邦彦委員、伊藤美代委員、片岡正孝委員、佐藤美代子委員、齋藤武大委員、佐藤俊介委員、今野久良委員、野尻晶委員、（11名）
○欠席者	佐藤昌幸委員、飯塚厚司委員、齋藤彦一委員、柴田千尋委員（4名）
○市側出席者	<p>【温海庁舎】</p> <p>粕谷支所長、齋藤総務企画課長、加藤市民福祉課長、伊藤産業建設課長、佐藤地域まちづくり企画調整主査、五十嵐専門員</p> <p>【本所企画部】</p> <p>地域振興課 齋藤地域振興専門員</p>
○公開・非公開の別	公開
○傍聴者の人数	0名
○次 第	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ</p> <p style="text-align: center;">五十嵐伊都夫会長 粕谷一郎支所長</p> <p>3. 説 明</p> <p>(1) 第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しの進め方について 資料1～4</p> <p>(2) 第2次鶴岡市総合計画前期基本計画の温海地域の評価・検証について 資料3-1</p> <p>(3) 温海地域まちづくり未来事業等の進捗と次年度の計画について 資料5、6</p> <p>4. 意見交換等</p> <p>(1) 今後5か年の「温海地域の振興」において重視すべき点について</p> <p>(2) その他</p> <p>5. その他</p>

6. 閉 会

○委員発言の概要

4. 意見交換等

A 委員

(1) 今後5か年の「温海地域の振興」において重視すべき点について

・焼畑あつみかぶの畑焼きの際に、杉葉の活用はよいと思うが、夏の暑い時期に枝から葉を取る作業は大変である。手間暇かけた分、他のかぶとの差別化や価格に反映されると良い。

・養蚕もやっているが、これまでの繭の出荷に加え、蛹になる前の幼虫を出荷している。昆虫食としての需要があり、美容と健康に良いと言われている。蚕は、逃げない、共喰いしない、餌は桑の葉だけであるため、昆虫食が進むと思われる。

・温海地域は、地形的な違いから少量だが多品種の物があり、その少量のものを大事に育てていくことで、他とは違う面白いことになるのではと考える。知恵を出しながら、温海に合ったやり方をしていけたらよい。

五十嵐会長

・A委員の発言に加え、資料6の4ページに記載ある新たな商品としてのそばそうめんの製造の取組について、具体的な動きがあるのか回答をお願いしたい。

伊藤産業建設課長

・そばそうめんは、細い素麺タイプの乾麺で、すでにふるさと納税の返礼品に登録されており現在は売り切れである。

・杉葉の活用は、アンケートにおいても、委員が言われたとおりの課題があげられている。令和5年度は、枝葉をチップにして運びやすいようにする計画をしている。手間をかけた分、赤かぶの値段に反映されるように様々な取組を考えていきたい。

・畑らいふ支援事業については、鼠ヶ関駅裏の畑を借り、あつみ天パク会が野菜作りの素人の方に対し、野菜作りを教えている。その活動を支援して3年目になる。参加者の方々は意欲的で、道の駅「しゃりん」のイベントで生産した野菜の販売も行った。この事業は、野菜作りの後継者の育成と、新道の駅で売る、稼ぐことを目指し取り組んでいる。

E 委員

・2021～2023の3か年、観光庁の高付加価値化推進事業の活用をする。2021年度は、宿泊事業者に上限2,000万円、2分の1補助ということで、あつみ温泉7件の宿が参画し無事終了した。今年度は、宿泊施設は上限1億円、観光事業者は上限500万円、廃屋撤去について上限1億円で補助率2分の1というメニューがあり手を挙げている。観光事業者5件、解体1件、11事業者が参画し、旅館では2月末を工期として改修工事をしている。

・来年度については、宿泊事業の改修が上限1億円、家屋解体が上限1億円、観光事業者の上限が1,000万円、補助率2分の1であり、湯野浜温泉、あつみ

温泉、湯田川温泉、由良温泉の4温泉合同でDGAMを中心に手を挙げる予定。この高付加価値化推進事業の最終年度の来年度については、採択になれば、4温泉で宿泊施設等の改修工事を続けて出来ると思う。あつみ温泉の宿泊施設は、大型施設3件が手を挙げる予定で、観光施設は1件、改修については、興味を示しているところが3件あり、それを取りまとめて、観光庁に補助金申請をしたいと考えている。

五十嵐会長

・あつみ観光協会のホームページについて、あつみ温泉だけでなく、鼠ヶ関についても載せてほしい。

G 委員

・今年から地域おこし協力隊（以下、「協力隊」と表記）に女性の方が配置されている。協力隊の全国の事例を見ると、任期終了後もそこに引き続き住み、地域の活性化を図っている。ぜひ、協力隊から温海地域の魅力を伝えていただきたい。そのためには、協力隊の方をいろいろなところに連れて行き、体験し、地域の良さを実感してもらい、地域の魅力を発信してほしい。そして、温海地域へ多くの方々から来ていただくことを願っている。

・新道の駅について、温海独特のものを取り入れていただきたい。温泉施設が併設されている道の駅もあるので、足湯ができるとよいと思う。商品を販売するだけでなく、しな織など体験できる施設も整備してほしい。

A 委員

・しな織について、国の補助金が不採択となった要因は。

伊藤産業建設課長

・しな織の取組について、もう少し工夫が必要なこと、描いているビジョンとやろうとしていることにギャップがあるのではないかの2点について指摘があった。地元と内容を詰めていく方向でいる。

A 委員

・地域おこし協力隊が、任期終了後も地元に残るよう定住支援を考えてほしい。

L 委員

・人口減少・少子高齢化を食い止めようとするとき、交流人口や関係人口の拡大が喫緊の課題と考える。東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラムや武者修行プログラムの受け入れは、交流人口や関係人口の拡大につながるので、継続して取り組んでほしい。

・交流人口や関係人口が進展すれば、次は、移住・定住を考えなければならない。そのためには、生活基盤の確保が大事であると思う。鶴岡市には、工業団地が11か所あり、鶴岡、藤島、羽黒、櫛引の4地域にある。工業団地がないのは、合併して過疎化が進んでいる朝日と温海地域である。温海地域にも何とか工業団地を立地し企業誘致を推進してほしい。これらの担当は、商工課であるようだが、ぜひ拡充をお願いしたい。（※朝日地域には、庄内あさひ工業団地（越中山）あり）

N 委員

- ・地元の中学生、高校生や若者を対象にした事業がもう少しあってもよいと思う。
- ・温海地域支援ネットワーク推進事業の「スマホで気軽に YouTube 講座」について、参加対象を最初は高校生から 20 代の若者としていたが、中学生から 20 代の若者にしたことと受講者が 3 名と少なかった理由は、
- ・温海地域教育環境充実事業において、業務委託ということで温海生涯学習振興会が受けることになったが、振興会も職員が 2 名変わるので、総務企画課から全面的にバックアップしていただきたい。また、地域おこし協力隊のサポートも協力いただけると有難い。

齋藤総務企画課長

- ・令和 3 年度に高校生を対象に事業を実施したが、令和 4 年度はさらに対象を広げ、中学生と大学生の参加があった。参加対象を広げたものの、受講者数は思うように伸びず 3 名にとどまった。
- ・温海地域教育環境充実事業について、業務委託ではあるが、温海地域振興会と温海庁舎が連携して実施しなければならないと考えている。地域おこし協力隊については、ミッションはあるわけだが、温海の祭典やイベントなどへ案内し、地域を知ってもらうことから進めていく。

D 委員

- ・新道の駅に、体験型の設備を検討していただきたい。温海温泉だけでなく、地域の活性化が図られるものをお願いしたい。また、近年ペットと旅行する方が多くなっているので、ドッグランや猫カフェがあるとよいと思う。
- ・資料 6 について、課ごとにまとめて記載してもらおうと、説明いただく際に見やすい。
- ・事業担当者の自己評価についても記載してほしい。事業評価することで、次年度の方向性が見えてくると思う。資料 3-1 のように事業評価を ABC 表記するのもよい。

粕谷支所長

- ・事業評価については記載のとおりで、内部的に事業評価を実施している。担当事業者が自己評価を行い、その上司とやりとりし、上司から私へ報告がある。評価の欄にどこまで落とし込むか、表記の仕方も含め検討させていただきたい。

F 委員

- ・地域医療についてお願いしたい。12 月中旬、高齢者の一人暮らしのおばあちゃんが、体調を崩し起きられず、部屋にこもりきりの状態になった。親戚の方も新型コロナウイルスの濃厚接触者になり面倒を見れないため、代わりに訪問した。衰弱しているようなので、関東にいる娘さんへ連絡を取り救急車を呼んだ。しかし、荘内病院は診てもらえない、協立病院は診てはもらえるが入院はできない。一人暮らしのため、入院できる病院探しに大変苦慮した。結局、山北徳洲会病院で診てもらい入院することができた。現在は、五十川の清流苑に入り、娘さん家族もほっとしている。我々の税金を投入している荘内病院が診て

もくれないことにすごく憤りを感じた。高度医療も大事だが、お年寄りに優しい、高齢者に温かい支援ある地域医療をお願いしたい。

粕谷支所長

・ 荘内病院から受け入れ拒否されたことについて、病状によっては、荘内病院で診れず、酒田の日本海病院へ回されることもあるので、荘内病院の担当へ伝えるとともに情報収集に努めたい。

I 委員

・ 保育園留学について、県内で実施している自治体はあるか。

齋藤総務企画課長

・ 全国の事例としては、(株) キッチハイクが事業運営しており、北海道の厚沢部町が一番早く取り組まれており、熊本県の天草市、新潟県の南魚沼市や山梨県でも取組を進めているところ。山形県では、初めて温海地域が取組に手を挙げた。保育園で子どもを受け入れすることになるので、あつみ福祉会と協議をしながら準備を進めているところ。

五十嵐会長

・ 保育園留学を実施するにあたり、住まいとなる空き家の確保も必要なのではないか。この事業で空き家が活用されれば、空き家解消にもつながる。

齋藤総務企画課長

・ 保育園留学をする家族は、1週間から2週間程度滞在する予定で、今のところ、小国の楯山荘や市営住宅を活用できないかと考えている。今後、(株) キッチハイクの方から保育園や宿泊施設の候補となるところを見学していただき詳細を決めていく。空き家の活用については、今のところ考えてはいない。

I 委員

・ 留学というので、子育て家族が何か月も滞在するのかなと思ったが、旅行の延長と捉えれば良いわけですね。

・ 新道の駅開業に向けて、鼠ヶ関のイベントの際に地域の宣伝やアンケート調査を行い、今後活かしてはどうか。昨年行ったエビ祭りに多くのお客さんが来られ、特に内陸からの親子連れが多かった。観光地をPRするものがあればよかったと残念に思った。温海地域は、1~4地区まで、それぞれ特色ある地域の宝がある。それらの魅力を引き出し、活かせるような取組をしてほしい。

K 委員

・ 事業計画はすごく良いと思う。これで、人が増えてくれれば願ったり叶ったりである。人材確保・後継者育成というフレーズが、すごく気になっている。温海から人が出ていく現状を止めないと、この課題は中長期的に続く。事業実施により、若い人が温海に住み続け、少しでも人口維持につながると有難い。自分たちも、今、出来ることを精一杯やっていきたい。

・ 令和6年度から小中一貫校が開校する。それに伴い、学業の選択肢が一気に広がる。親が、子どもを教育環境のよい所で学ばせたいと願うのは当たり前である。中学生で通学に30~40分かかかるのであれば、市街地へ住んだ方が早いと、温海地域の人口減少に拍車がかかるのではと危惧している。

・加茂の火災は、空き家含めて6棟全焼、2棟部分焼。すぐに駆け付けつける消防団員がもっといれば、また、空き家がなければ延焼は防げる。計画された事業の実施により人口が増加することを願う。

J 委員

・電車通学が高校3年間だったのが、中学から6年間となると家族で市街地へ転居してしまうかもしれない。消防団も人材不足で、いつまでも消防団から卒業できない状況である。

・資料5の重点施策にある関係人口の創出について、昨年度、東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム、(株)旅武者による武者修行プログラムによる大学生や温海地域の青少年事業による中学生と、若い人たちからあつみ温泉地内でいろいろな活動をやっていたことは、大変効果的な取組だったと感じている。学生は、情報発信にも長けているため、学生が温海地域での活動の様子などを発信することは、温海地域をアピールすることになる。すぐに成果が出るというものではないが、継続性を持ち事業を行っていただきたい。

・バラ園改修について、可能であればライトアップも検討していただきたい。他では期間限定でライトアップを行っているところもある。常時、もしくは、バラ園が満開の時だけでもライトアップが出来れば、宿泊客が増加し、市の税収アップにもつながると思う。

・資料3-1の温海温泉と鼠ヶ関の集客という部分において、事業進捗状況がC評価で実績値も大変厳しい数字と認識している。外的要因などあり大変苦戦しているが、これから何とか持ち直していきたいと考えている。あつみ温泉魅力向上事業において、平成12年から約24年間、専門家の指導助言を仰いでいる。24年前と今では、環境、考え方や価値観が違ふし、インターネットの進展により時代は大きく変わっている。見直すべきではないかという声も聞かれる。事業評価も含め、温海庁舎としての見解をお聞かせ願いたい。

伊藤産業建設課長

・バラ園は、熊野神社の参道の階段を上っていくので、ライトアップについては、危険性を加味しながら内部で検討し、必要に応じて打ち合わせをさせていただきたい。

・指導いただいている先生については、国土交通省や観光庁とパイプがある方である。専門家抜きで頑張るかどうかは、地元の皆さんが、皆さんの責任において考えるべきことと思う。いつまでも専門家に頼っている局面ではないだろうと感じてはいるものの、先生の持っている力を生かす意味ではどうすべきかと思案しているところ。

五十嵐会長

・欠席委員から何かあるか。

佐藤まちづくり企

(欠席委員からのご意見等を読み上げ)

画調整主査

(C委員)

1. 道路整備と安全対策について

・高速道路の工事、新道の駅の整備検討など進んでいるようだが、現在、マックスバリュの辺りの十字路（国道 345 号と国道 7 号が交わる箇所）が非常に危険である。特に国道 7 号を走る車はスピードも出ている。横断歩道をはっきりさせる、ペンキで色分けするなど工夫して、歩行者、自転車が安全に渡られるようにするなど安全対策をしっかりとしてほしい。

2. 子育て支援について

・給食費を全員無料にするなど、子育て世代が安心して子育てできる環境を整えてほしい。

3. 地域のことを話し合う場づくりについて

・働き方の変化やコロナの影響などにより、昔より地域のことを話し合う場が少なくなったと感じる。集落単位で皆が地域のことを何でも話し合える場づくりが必要と感じる。

(H 委員)

1. 老人クラブ連合会の運営について

・老人クラブ連合会温海支部には、現在 9 つの単位団体が加入しているが、それぞれの団体も会員数が減少しており、高齢化により事業に参加する人も減っている。そのため、連合会温海支部の運営も非常に厳しくなっている。支部の会長は、温海地域だけでなく、市、県の連合会の会議などの出席も求められ負担が大きく、会長のなり手がいない状況である。また、会員の高齢化が進んでいることから、事務局を担う人材がおらず、大変苦慮している。社会福祉協議会などで事務局を担っていただくと大変有難い。団体の運営について、アイデアをいただきたい。

(M 委員)

・あつみ温泉において「イベントではなく地域の魅力を高めるという方向性にシフト」することや「公共施設のクオリティを維持する」ことについては良いと思った。既存の公共施設のクオリティ維持は今後も重視していただきたい。
・教育旅行の誘致が観光につながるのか、という点に疑問を感じている。

五十嵐会長

欠席委員からのご意見等ありましたが、他に何かご意見等あるか。

L 委員

・温海地域集落ビジョン策定支援事業について、自治会役員を対象に研修会を行うと記載があるが、それぞれの集落ごとの 10 年後、20 年後、30 年後どうなるかという、人口シミュレーションを見せたら危機感を持ち、ビジョン策定に取り組むのではないか。

宮名集落の場合、200 人ちょっとの人口が、35 年度に 70 人になり、高齢化率は 62%になると聞き、集落ビジョン策定に取り組んだ。

齋藤総務企画課長

・宮名自治会におかれては、市の事業の人口シミュレーション事業で 5 年前と

現在の人口を比較して、10年後、20年後どうなるかをお示し、集落ビジョン策定に取り組んでいただいた。庁舎でも各集落のデータを持っているので、今後どのように活用していくかだが、来年度は、まず全体の研修会を行い、関心を示し取り組むところがあれば、個別にワークショップなど行いビジョン策定を支援してまいりたい。また、個別支援を行うにあたり、ご意見を踏まえながらビジョン策定に取り組んでいく。

五十嵐会長

・資料5の令和5年度地域まちづくり未来事業について、★（星印）重点事業とあるが何か。

齋藤総務企画課長

・赤く記載ある事業は、各課長が説明させていただいた、来年度の地域まちづくり未来事業で、そのうち★（星印）が付いているものは、重点的に取り組んでいく事業を示すもので、新規事業や拡充事業をあげている。

A 委員

・風力発電の関係で、山形新聞にラムサールの関係で、加茂地区への建設は反対すると市のコメントが出ていたようだった。福栄地区に建設の話があれば、積極的に誘致したい。課題となるのは、送電と言われているが、摩耶山を通る送電線は、大きいので問題がない。民間の力で地域活性化につながる取組は、積極的に導入するようお願いしたい。

五十嵐会長

・10年前くらいに芸工大の三浦先生にお願ひし、風力発電建設をお願ひした時期があったことを報告する。

粕谷支所長

・加茂地区の風力発電建設反対については、ラムサール湿地に近く、渡り鳥に及ぼす影響や自然環境に配慮したということ。加茂地区は、全員反対していたわけではない。どこでも賛成と反対は一定数おり、その調整を図っていくことが肝心である。再生可能エネルギーについては、考えていかなければならないこと。風力発電については、適地調査が行われており、採算が取れるかどうかを確認できる。業者としては、すでにデータがあるところを中心に検討している状況。三瀬と同時期に温海にも風力発電の誘致について話があったが、三瀬の方が早く事業化したため、容量の関係で、既存の送電線が利用できない、引くには多額の費用がかかることから断念した経過がある。今後、風力発電建設について、庁舎に話が来ても庁舎で判断することはない。地元の皆さんとも共有する。最終的には、事業者がどのように判断するかということになるかと思う。